

第2回 4月21日の講義内容



- § 1. 社会調査とその方法
 - 社会調査とは
 - 学問・科学としての社会調査
 - 社会調査の軸
 - 量的調査
 - 質的調査
 - 記述的調査と説明的調査

4/21/04

1

§ 1. 社会調査とその方法



- 社会調査とは
関心のある社会現象を観察して、**第一次資料**としてのデータを収集する。そして、それに基づき、記述及び分析を行うこと。
- Note: 第一次資料とは

4/21/04

2

学問・科学としての社会調査



- 要請
 - データの質が高い
 - 結果の妥当性、説得性、信頼性
- ⇕
- 客観的な基準に立脚した方法の採用
追調査可能性であること

4/21/04

3

質的調査



- 限定的標本に対する非定形的、複合的内容をもつ調査。
- 如何にして被対象者の主観的な情報を引き出し、その社会的意味を調査者が整理し、普遍化するかがポイント。

質的調査の種類



- 事例調査法(ケース・スタディ)
- インタビュー調査
- 参与観察
- ドキュメント調査(ライフ・ヒストリー調査)

質的調査の利点と欠点



- 利点
 - 総合的に理解可能
 - 深層まで追跡可能
 - 動態を把握可能
- 欠点
 - 一般化が困難
 - 検証不能

記述的調査と説明的調査



- 記述的調査
 - 社会現象の記述が目的
 - 記述から抽象概念を推論・作成することもある
- 説明的調査
 - 複数の社会現象の記述から、複数の社会現象の関係の因果関係を探ることが目的
 - 抽象概念間の因果関係を探ることが目的でもある
岩永P26参照

4/21/04

10

まとめ



- どのような調査方法が妥当・適切かは、調査目的によって異なる。



- 問題意識や調査目的・目標を明確にしておくこと!!

- Note: 複数の調査方法を組み合わせることで、より明確に全体像を浮かび上がらせるよう、試みている研究者もいる(ブルデュー(P. Bourdieu))

4/21/04

11

考えてみよう



- 「OLの職場内での地位・役割」に関する調査
 - 目的: 実質的な役割、権力構造を明らかにする。
 - どのような調査手法をとるか

参考文献

- 小笠原祐子(1998)『OLたちのレジスタンス』中公新書
- 脇坂・富田編(2002)『大卒女性の働き方』日本研究労働機構

4/21/04

12
